

北海道民放クラブ活動だより

3代目会報編集長に越野さん就任

2006年北海道民放くらぶ会報70号から担当していた井上さんが今年5月発行の127号で引退、HBCの越野さんにバトンタッチした。

「思い起こせば、2代目編集長の渡邊さんから『もう疲れた。引受けってくれ』と頼まれ、気の毒になつて未経験の世界に飛び込んだ。

越野さんはすべての原稿を書き写し、字数を数え、割り付け表を作つて印刷会社に渡して

受けたところに驚いた。私はそんなことはできないので、ネットで調べて見つけたパーソナル編集長という便利なソフトを購入、すべての作業をパソコン処理にした。また、それまで横書きだった紙面を縦書きに変更した。

ただ原稿集めには苦労した。なかなか締め切りまでに届かなかつたり、メールではくれず、原稿を打ち込む作業もあり、時間がかかった。

「思い出の歌」や「健康」の企画ものは、長続きしなかつた。紙面

を埋める苦労は今も続いている。校正はHBCの長原さんにお世話になつた。自分で打ち込むとなかなかミスを見つけられない。

俳句欄では一字間違えに気づかず迷惑をかけたこともあつた。

ある人に受けてほしいと頼んだら、やめたるボケるから続けた方が良いといわれた。一理あるようだ。おかげで脳の活性化に役立つていた。

また、全国版の北海道地区編集担当に前任者の和田さんが会長に就任したことでの私に回ってきた。

全国版の苦労は会員便りだつた。

6人くらいに依頼していたが、書いてくれる人は少ない。全国に伝える内容がないという理由だつた。

4代目編集長を越野さんが引き受けたところに感謝している

井上さんの退任の弁だ。

ナ禍の厳しい環境にありながら、昨年度は緊急事態宣言もあつて四回休止しましたが、それでも年八回対局を楽しみました。

会員は10名ですが月一回の例会には7、8人の会員の他、部外者も加わり頭脳と身心の活性化に寄与しています。今年度も四月早々富山県独自の感染防止対策「富山アラート」(警報指標)を発令し注意を喚起しています。

幸い富山県は「まん延防止措置」の適用を受ける状況でなく囲碁会をこれまで通り月一回の開催を決め参加はあくまで自己管理を徹底し各個人の判断に委ねることにしています。

囲碁では明確な目標、方針の下に一貫して配石することが求められます。曖昧な手、中途半端な手を極端に嫌います。

民放クラブ・石川は2007年(平成19年)に東海民放クラブから独立し、北陸民放クラブ・石川として設立しました。来年は節目の年、設立15周年です。金沢・加賀平野は平地からも靈峰白山を一望で見て絶景です。また能登半島は、日本海に細長くのび、海の幸の宝庫です。

他地区の民放クラブとの一層の情報交換を行ない、共通のテーマで活動をすることや「山城めぐり・フィッシング」など、同好の状況を招いていたとか思えてなりません。変異株の感染者が拡大し、富山県でも四月末で百人以上に達しました。国の対応が後手にまわり第四波の到来です。明るい見通しはワクチンの接種です。古今和歌集より、「古里は見しげともあらず斧の柄の朽ちし」と

ころぞ恋しかりける」(爛柯伝説を詠み込む) ～合掌～

民放クラブ・石川 新会長に就任

石川 真 (ITC)

コロナウイルスの感染拡大での見えない不安に覆われて、人の行動、交流が制限され続いている。民放クラブの活動も当然制限されている状態の中、4月に会長職を渡邊前会長から引継ぎました。

民放クラブ・石川は2007年(平成19年)に東海民放クラブから独立し、北陸民放クラブ・石川として設立しました。来年は節目の年、設立15周年です。金沢・加賀平野は平地からも靈峰白山を一望で見て絶景です。また能登半島は、日本海に細長くのび、海の幸の宝庫です。



山田新会長

富山

北陸民放クラブ活動だより

中田敏彦 (KNB)

当クラブ富山の囲碁部会はコロ

コロナ禍でのクラブ活動

富山

北陸民放クラブ活動だより